

令和元年度水戸市市政モニター提言について

令和元年度市政モニターについて

令和元年度の市政モニターは、令和元年5月に委嘱を行い、2つのチームに分かれ「水戸市に住んでいる人が住みやすくなるため」と「市外の人が水戸に行きたいと思うようにするため」の2つの視点から議論を行い、令和2年2月6日に市長に対して以下の内容の提言を発表した。

○チームについて

【中チーム】

水戸市に住んでいる人が住みやすくなるために必要なものを考えるチーム

【外チーム】

水戸市外の人が観光等で水戸市を訪れたいようになるために必要なものを考えるチーム

提言

I 中チームの提言

1 脱自動車

中心市街地での移動手段を便利にすれば、買い物や飲食（飲酒）による消費が拡大してまちの活性化につながると考える。また、高齢化による将来の免許返納を考えると、自動車以外の移動手段は必須である。

将来的には、乗降の容易性、定時性、快適性に優れていると言われるLRTの整備を希望するが、当面の対策として、バスの不満点を解消すれば自動車以外の交通手段の利用促進につながるのか、半年を目安に社会実験を実施すること等を提案する。歩行者数等に有効性が見られた場合にはLRTの前向きな検討を期待する。

提言1

家族で移動する場合、路線バスは小学生から運賃が必要となり、一緒に行動する人数が増えるほど負担感が大きくなると思う。また、水戸市内の路線バスについては、運賃の支払いに利用できるICカードが限定されているほか、走行中の揺れが大きく車酔いしやすいと感じられるなど、路線バスの利用促進を図るためには、乗車中の快適性や利便性の向上が必要と考える。

また、水戸駅北口方面については、バスの便数やバス停が多く、交通状況によっては遅れることもあり、自由に移動できる自家用車の利用を選択する方が多くなっていると思う。

これらの課題解決のため、次のような取組を期待する。

- ・水戸市内全域の路線バスの運賃を100円均一にする。
- ・保護者が同伴で路線バスを利用する場合、18歳以下の運賃を無料とする家族割を設定する。

- ・運賃の支払いがスムーズになるよう、車内での電子マネーの使用を義務化する。又は信用乗車方式を採用する。
- ・バス専用の走行車線を設定し、加速を緩やかにすることによりバス乗車中の快適性を向上させるため、最高速度を時速30kmに制限する。
- ・水戸駅北口方面においてはバスの本数が過剰であると思うので、便数の削減をする。
- ・水戸駅北口方面のバス停については、各バス停が近接しているので、バス停の削減、又は停車するバス停を限定した急行バスの運行をする。
- ・到着予定時刻等の運行状況や車内の混雑状況のほか、様々な情報を発信する掲示板として、主要なバス停にデジタルサイネージを設置する。
- ・社会実験期間中に水戸市の主要イベント、マルシェ、ファーマーズマーケット等を実施し、自動車以外の交通手段の使用を前提とした目的地を増設する。

（市長発言要旨）

本市においては、公共交通を育てることが都市機能を維持する上で重要と考えており、現在、バス事業者と路線の再編等に取り組んでいるところです。

御提案のLRTの導入については、今後、商工会議所等とLRTについての勉強会を実施する予定です。水戸市の中心市街地（国道50号沿い）でLRTを整備した場合、自動車の利用できる車線が減ることによる渋滞の発生や、LRTの駅と駅の間隔によっては、その間の駐車場や商店の利用者減など、課題もあると思われます。

宇都宮市の場合、工業団地に通勤する人々で慢性的な交通渋滞が発生しており、LRTの整備はその解消という目的があります。本市も、整備する上では明確な目的（あったら便利、おしゃれ等ではなくて）が必要であり、これから検討が始まるところです。

なお、路線バスで利用できるICカードについては、今後、茨城交通が販売するICカード「いばっぴ」をJR管内で使えるようになり、JR東日本が販売するICカード「Suica」を茨城交通の路線バスでも利用できるようになると伺っております。

提言2

路線バスの最終便の時間が早いため、深夜の移動手段が限定されてしまう。

また、地域によっては路線バスの本数が少ないため、公共交通による移動が難しいのが現状です。公共交通による移動を促進するために、次のような取組を期待する。

- ・市内の路線バスについては、駅前及び市街化区域の沿線全線で10～15分の間隔で運行をする。
- ・市内の路線バスについては、週末限定で深夜1時まで運行する。深夜の運行によって増加する経費については、時間帯による運賃の値上げを検討し、割増設定しても利用者がいるのかを把握するため、路線を限定した社会実験をする。
- ・中心市街地等の飲食店で5,000円以上の飲食をした者にタクシー利用補助券2,000円分を提供する。
- ・Uber等のシェアリング・配車サービスを誘致し、場所、時間帯を限定して特区のような

形で導入する。

- ・M a a Sの取組を推進する。

（市長発言要旨）

公共交通を育てることは、都市機能を維持する上で重要と考えます。現在、バス事業者と路線の再編に取り組んでおり、取組の結果、バス事業者へ補助金を支出して水戸駅南口とけやき台を結ぶ路線の新設等を行っております。今後も、使いやすい公共交通となるよう取り組んでまいります。

提言 3

水戸市内には千波公園や図書館など、魅力的で利用したい施設が多くあるが、各施設までの移動については、路線バスの行き先が分かりづらく利用しづらい状況である。誰もが気軽に移動できるように、公共交通の改善を期待する。

- ・主要拠点（偕楽園、芸術館など）へ行くバスについては、行き先が一目で分かるように、行き先ごとにバスの車体の色を決める。
- ・J R常磐線の偕楽園駅については、梅まつりの期間だけでなく、常時停車をさせる。
- ・中心市街地（京成百貨店）から千波公園への移動手段として、ロープウェイを整備する。
- ・千波公園などの人気の施設へは、水戸駅からの直通バスを運行する。

提言 4

千波湖沿いの道路については、自動車の交通量も多く、歩行者やランニングをする人等が危険を感じることもある。歩行者等の安全確保のためには、自動車の交通量を減らすことが有効と考えるので、千波湖沿いの道路や駐車場について、通行料や駐車料を徴収し、交通量の制限をしてはどうか。

また、市内の自動車の交通量を減らすためにも、わんぱく・みと等の施設の駐車場も有料化してはどうか。

2 子育て支援

子育て中の親に自由な時間があれば、自分のための消費（美容院等）が増えて経済の活性化につながると思うが、子どもを預けるためのサービスを思うように利用できない現状がある。安心して子育てができるように、サービスの拡充と子育て環境の整備を提案する。

提言 5

「わんぱく・みと」や訪問型病児保育事業「ぷちぷり」など、子どもを一時預かりしてくれる制度はあるが周知が足りないように感じる。

また、利用する場合には事前予約が必要であるが、それぞれの受付の電話はつながりづらく、また、すぐに定員に達して利用できないことが多い。

特に核家族の世帯などは、急病等で子どもを預ける必要があっても預けられないことがあるので、必要な時に簡単に利用できるように改善をお願いしたい。

- ・預かり定員を増やす。運営経費が増大する分は、利用料金の増額を検討する。
- ・施設の空き状況等をネットで確認できるようにする。
- ・予約の窓口を一本化し、ネットからも予約できるようにする。
- ・子育て中の核家族世帯については、優先的に予約ができるように、受付開始を通常より2週間早くする。
- ・一時預かり制度について、予防接種券や子ども手当の通知に無料利用券や広告を同封し、子育て世帯へ周知する。
- ・夜間の一時預かりにも対応できるよう、一日の利用時間の上限を8時間とした上で、わんぱく・みと等の受入時間を22時までに延長する。あるいは、施設ごとに営業時間をずらすことで上記を達成する。

（市長発言要旨）

一時預かりについては、予約方法・状況等を把握し、制度の利便性が向上するよう検討してまいります。

提言 6

水戸市内には、乳幼児が遊べる施設はいくつかあるが、6歳程度の子どもが雨の日に遊べる場所が少ない。また、市民センターは高齢者による利用が多く、室内で子どもが遊べる空間が少ないと感じている。

天気が悪くても、子どもが元気に遊べる施設の整備を提案する。

- ・親子が広い室内空間で遊べる施設を水戸駅近辺に整備する。また、市が設置することが困難であれば民間事業者を誘致する。
- ・子供たちが自由に市民センターを利用できるようにする。

（市長発言要旨）

市民センターは、高齢者だけの利用を想定したものではありませんが、実際には高齢者の利用が多くなっており、子どもが利用しづらい現状であると認識しております。

現在、新しく整備中の千波市民センターは、子どもが利用できる空間を設ける予定であり、既存の市民センターについても、幅広い世代の方が集まれるような工夫を考えてまいります。

提言 7

子どもの医療費については、大都市に比べると負担金が高いと感じられる。子育て世帯の負担軽減のためにも、6歳までは一部負担金のない完全無料とするなど、マル福制度の強化を提案する。

（市長発言要旨）

子どもの医療マル福制度については段階的に強化してきており，令和2年10月からは，高校生までを所得制限なしとする予定です。一部負担金の額については，これからの検討課題であると考えております。

提言 8

脱自動車を推進し，子育てしやすい街にするためにも，水戸駅近辺に魅力的な施設が欲しい。南町近辺に商業施設（例：ららぽーと）を誘致できないか。

3 その他

提言 9

中心市街地に賑わいをもたらすためには，多くの人が訪れることが必要と考える。中心市街地で飲食した人を対象に，飲食したお店と同じエリアでの買い物等に利用できるポイントを付与してはどうか。また，利用された店舗の負担とならないように，利用に応じた補助金支出などの制度を検討願う。

（市長発言要旨）

御提案のように，エリア内で利用できるポイントを付与することは，その地域の活性化を図る上では有効な手段と考えます。

しかしながら，無制限に補助金を支出することは難しいので，対象エリアや人，参加してくれる事業者を限定するなどの制度設計が重要と考えます。

御提案内容については，持続可能な制度として実現できるかを含め，検討してまいります。

提言10

市内にフリーW i - F iを整備し，どこにいても高速でネット回線につなげられるようにしてほしい。

提言11

長く水戸市に住んでいる方を対象に，1年目に市内で使える商品券，10年目に植物公園や博物館等の水戸市立機関の年間パスポートを配布してはどうか。

提言12

水戸駅の北口と南口の往来について，自転車利用の学生等がペデストリアンデッキを渡っていて大変そうなので，地下道路を作るなどして移動しやすくしてほしい。

提言13

道路の破損や，市が掲示した古いポスターなどを見かけたときに，簡便に水戸市に通報できる

ように、スマートフォンで撮影した写真を市へ送付できるアプリを導入してはどうか。

Ⅱ 外チームの提言

1 観光地・水戸の更なる振興に向けて

水戸市が掲げる 2023 年の観光交流人口 450 万人の達成に向けて、観光客に「また来たい」「一生の思い出に残る」と思ってもらえるように、ターゲット層を定めた観光ルートの整備を提案する。※観光ルート等については、別紙を参照

提言 14

水戸市内には歴史に係る施設が点在しており、初めて訪れる方にとっては、移動手段が分かりづらいと思います。偕楽園や弘道館等を観光客が周遊しやすいように、バスやタクシー、人力車等を含めた施設間の移動手段を一体的に扱う MaaS の取組みを推進するとともに、分かりやすい観光ルートを設定してはどうか。

また、移動するバスの車内では、VR を利用して歴史的な風景を体感させ、目的地である施設周辺の景観の整備とあわせることにより、過去へのタイムスリップを疑似体験させてはどうか。

（市長発言要旨）

三の丸地区を含む弘道館・水戸城跡周辺地区については、平成 31 年 4 月 1 日付けで、水戸市都市景観条例に基づく都市景観重点地区に指定しております。

また、観光ルートについても検討してまいります。

今後も、住民、事業者、行政が協働して、地区の良好な景観の保全に努めてまいります。

提言 15

観光地を巡る途中で、家族や友人と同じ体験をして共通の思い出とできるように、千波湖周辺に菓子工房のような体験施設を整備してはどうか。

（市長発言要旨）

本市においても、民間事業者等の協力により、コト消費に着目した体験プログラムの PR を進めております。中でも、外国人観光客には武道体験が人気であり、観光客の増につながっていると考えております。今後も、コト消費を意識した観光客の誘致に取り組んでまいります。

提言 16

県外からの観光客が水戸に来た場合、食事場所について迷うことが多いように感じられる。茨城にはおいしいものがたくさんあるので、千波湖周辺の観光施設などに食事場所を整備し、「水戸の酒」や「あんこう鍋」「奥久慈しゃも」などを PR してはどうか。